

受入から10年を迎える

1975(昭和50)年7月に高知県とベンゲット州は姉妹県州の提携を行い、具体的交流計画の中にベンゲット州からの「農民交流案」がありました。これは、県研修員として来県したドロシー・ハマダ氏の発案でしたが、22年間塩漬け状態になっていました。

しかし、1997(平成9)年2月に吉川浩史氏が農家・JA土佐くろしお等10数人とともにベンゲット州を訪問した際に農業研修生受入事業を推進することが確認されました。そして、同年6月には、JA土佐くろしおとベンゲット州との間で農業研

■農業研修生の受入

(受入先：JA土佐くろしお、H16年からはくろしお農業振興組合)

受入年度	受入人数	受入年度	受入人数
1997年(H 9年)	15人	2003年(H15年)	6人
1998年(H10年)	12人	2004年(H16年)	9人
1999年(H11年)	12人	2005年(H17年)	20人
2000年(H12年)	—	2006年(H18年)	29人
2001年(H13年)	—	2007年(H19年)	23人
2002年(H14年)	13人	累 計	139人

修生の派遣受入協定を締結しました。以後、JA土佐くろしおは、須崎市で58名を受け入れ、平成16年にくろしお農業振興協同組合がその事業を受け継ぎ、現在では宿毛市、四万十市、四万十町、須崎市、香美市、香南市、芸西村の受入農家に81人が所属し、受入れ事業は継続されています。



農業大学校(四万十町)で楽しく実習!!



長瀬文化環境部長(前列左から3人目)を囲んでにこやかに

第6期生が長瀬文化環境部長を訪問

くろしお農業振興協同組合が受け入れているフィリピン・ベンゲット州の農業研修生・実習生第6期生12人(うち1名は愛媛県の受け入れ農家の実習生)が3年間の研修を終えて帰国するにあわせて10月24日、高知県庁・長瀬文化環境部長を表敬訪問しました。

研修生達は、ミョウガやシシトウなど自ら担当した作物についての研修内容や帰国後の活動予定について、一人ひとりが日本語で説明をしたのち、長瀬部長を囲んでの記念撮影を行い、帰国後の活躍を誓いました。12人は、10月から4月まで順次帰国する予定です。

盛大にクリスマスパーティーを開催!

研修生たちが一番楽しみにしているのがクリスマスです。12月20日の夕刻、くろしお農業振興協同組合が主催となり、JA土佐くろしお本所の3階で、ベンゲット州の農業研修生・実習生や受入農家の家族ら総勢80人が参加して、クリスマスパーティーが盛大に行われました。

研修生・実習生による手作りのフィリピン料理や須崎の海鮮料理に舌鼓を打ちながら会場が和んでくると、研修生たちから日本語で「春が来た」が披露され、また楽器演奏で盛り上がりました。そして、最後はみんなでベンゲットの打楽器に合わせてダンスを踊って、会場の雰囲気は最高潮となりました。



みんなでダンス。会場は最高潮に!